

新型インフルエンザの広報（情報提供）やメディアの報道について

NPO 法人 環境汚染等から呼吸器病患者を守る会（エパレク）

事務局長 矢内純子



NPO 法人エパレクについて

エパレクは主にぜんそくや COPD など慢性の呼吸器病患者、アレルギー患者への支援活動をしている団体です。病気についてのテキストの作成、先輩患者による後輩患者への支援をする学習会、またそれらの病気について患者だけでなく一般の市民への啓蒙活動として年一回ずつの「講演会」「大相談会」、禁煙活動なども随時行っています。<http://eparec.com>

2.患者の立場から、広報や報道について

＜良かったと思う点＞

厚生労働省の対策は、先手を打つことで流行を最小限にできたのではないかと。

厚生労働省からの情報の提供が早かった。

医療へのフリーアクセスや抗ウイルス薬の供給体制。

朝日新聞「新型インフルどう対応」の連載はわかりやすかった。

＜問題があったと思う点＞

国の対策の目的が十分に伝わってこなかった。

情報が断片的で、「実際にどうすべきなのか」などが理解しにくかった。

作成したマニュアルの目的が「啓蒙」なのか「とっさに役立つ情報」なのか十分絞り込めていなかった。

ワクチン情報が交錯、過熱していた。

3.一般の人の声

他国と比べて日本の医療水準が高いことが感染を食い止めたと思う。

日頃の生活習慣が大事だとわかった。（手洗い、マスク、健康への関心）

健康に自信があるので、報道自体にあまり興味がなかった。

輸入ワクチンはどうなったのか？余ったワクチンはどうするのか？

季節インフルはこれからも流行するのか？

4. 患者会としての対策

例年 11 月に開催するセミナーの時期を 1 月にずらした。

一昨年秋より、「トリインフルエンザ」対策として、学習をしていた。

春より、「新型インフルエンザ」について、毎月の学習と広報誌での啓蒙をした。